

学校読書活動の取組【城陽市立城陽中学校】



1 実践の見出し

「読書習慣の確立と読書力向上のための、学校図書館の充実を目指して」

2 学校の概況や児童生徒の様子等

城陽市の中心に位置し、周囲には公共の施設や商店、飲食店なども集中している。校区には、古くからの町並みと新興の住宅地が混在する。保護者や地域住民の教育に対する関心は高い。生徒も落ち着いた学校生活を送っているが、学習を苦手とする生徒も多い。また、生徒同士の間関係の希薄さが見受けられる。そのため、「人とつながる力」や豊かな感性を育むことが必要である。令和3年度は特別支援学級2学級を含む14学級で、在籍生徒数は415名である。

3 実践内容

(1) 学校図書館運営の企画・立案

ア 図書の更新

図書の購入にあたっては、生徒・教員からのニーズに応じることを目指した。図書室にはリクエストボックスを設置しており、生徒が自由に希望できる。生徒のリクエスト本は可能な限り購入し、図書日より等で生徒に周知した。また、今年度は一人一台のタブレット端末を活用し、選書会を行った。生徒は、何冊かの候補図書の中から図書室に配架して欲しい図書を選んだ。自由記述でもリクエストを募り、図書購入の参考にした。多くの生徒から意見を募ることができ、図書室への関心を喚起する機会ともなった。

また、教員に対しては、図書のカタログを回覧し、授業等に活用できる図書を選定してもらった。今年度は、特に感染症対策やSDGsに関する図書の希望が多数あった。

【1】図書室に入れて欲しい本を選んでください。(3冊まで) (複数選択)



【2】図書室に入れて欲しい本があれば、自由に書いて下さい。

【1】図書室に入れて欲しい本を選んでください。(3冊まで)



【2】図書室に入れて欲しい本があれば、自由に書いて下さい。

回答一覧

エッセイを入れてほしいです。また、いつでも気軽に読めるような短編小説や、世界の絶景集も読みたいです。

スターツ出版文庫の本（生野夜空や、いぬじんの本）を入れて欲しいです。また、少し難しめな本（野と野や人間関係など）があると嬉しいです。

イ 推薦図書を選定

学年ごとに推薦図書を選定している。また、中でも特に推奨したい本を各学年3冊ずつ選定し、「城中生必読書」と位置づけた。複数蔵書の図書は、各学級の学級文庫の支援にも活用した。

ウ テーマ展示の実施

図書室の入り口付近のよく目につく場所に、別置コーナーを設置している。一ヶ月ごとにテーマを設定し、関連する図書を紹介する。テーマは学校行事や学習内容にあわせて設定しており、今年度は図書の



「帯」をテーマにした展示やSDGs、LGBT等に関する展示などを行った。また、テーマ展示以外に、カウンター横や書架の上にも別置コーナーを設定しており、本の「顔」である表紙をより多く見せられるよう工夫を行っている。



(2) 学校図書館の授業活用

1年生では、入学時に図書室のオリエンテーションを行った。実際に図書室で紹介や利用の説明を行い、一人一冊の貸出を行った。現在も図書室の利用が続いている生徒も多い。

2年生では、授業内でビブリオバトルを実施した。生徒のふり返りでは、授業での紹介活動を通して読書への関心が高まった、久しぶりに図書室へ行った等の感想が見られた。

3年生では、読書感想文コンクールの指導を図書室で行った。読書が不得意な生徒への支援となるだけでなく、他の生徒にとっても多くの図書にふれる機会になったと考えられる。



(3) 生徒の読書活動に対する指導

ア 朝の読書

毎朝、朝学活前の15分間を「朝の読書」として設定した。読書の習慣がない生徒もいるが、学校全体で読書の雰囲気づくりに努めた。この時間に読んだ図書が、読書感想文やビブリオバトルにつながる生徒も多い。

イ 図書だよりの発行

図書室の情報発信、読書啓発のために、月1回のペースで図書だよりを発行している。新着図書や読書感想文コンクールの課題図書、学校図書館司書のおすすめ本の紹介などを主に掲載した。また、前述のテーマ展示についてもこの図書便りで周知している。図書室への来室が少ない生徒にも情報を発信することができた。

ウ 学級文庫への支援

各学級には、担任や学年所有の図書が設置されており、生徒が自由に読書することができる。図書室に足が向かない生徒にとっては、最も身近な図書だと言える。その充実のため、学校図書館からも支援を行った。まず、委員会活動の一環として、学級の図書委員が5冊ずつ選出した図書の貸し出しを行った。この図書はおおよそ2ヶ月に1回更新を行っている。また、城陽市立図書館からの巡回図書もあわせて配置することで、多様な図書を身近に配置することができた。

エ 委員会活動

図書委員会では、主に読書の啓発活動を行っている。まず、ポップカードの作成である。自身のおすすめの本を絵なども交えながら紹介を行った。ポップカードコンテストに出品したり、読書週間にあわせて全校に掲示したりと多様に活用することができた。



また、読書週間にあわせた取組として、図書室の読書マップを作成した。図書室に馴染みのない生徒たちに、どのような図書があるのか、そしてそれぞれの書架からおすすめ本を紹介した。利用が学年ごとに限定される中で、図書室の利用を活発にする一因となった。

(4) その他の取組

ア 公立図書館との連携

巡回図書を積極的に活用することで、限界のある学校図書館の蔵書を補っている。

イ 各種コンクールへの出品

「第六十七回青少年読書感想文京都府コンクール」には全校を挙げて取り組んだ。事前指導で図書室を活用した学年もあり、学校図書館の図書を使って感想文を書く生徒も多かった。自分の意見をもって読書することを改めて意識するきっかけになった。

また、「本のポップカードコンテスト」にも、図書委員の生徒の作品を応募した。

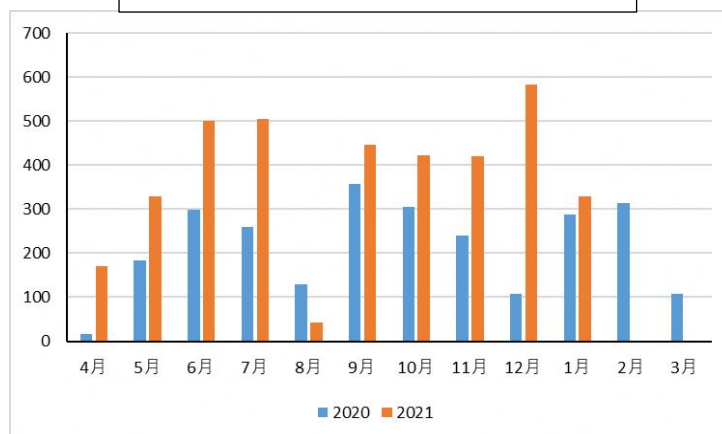
4 成果と課題

(1) 成果

生徒や教員の希望を反映させた新書購入ができた。また、図書の紹介を授業や委員会活動で実施した。これらを全校的に行うことで、本を進んで読む生徒だけでなく、読書とあまり縁の無かった生徒の読書意欲にもアプローチすることができた。そして、あわせて読書の啓発活動を積極的に行った結果、今までにふれてこなかった図書を、生徒たちの目にふれさせることができた。生徒の読書量の増加や、読書する図書の幅を広げることに寄与したと考えられる。

右の図1は、昨年度との貸出冊数の比較である。なお、この二年間は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、満足に図書室の開室をすることができない期間もあった。その点をふまえても、今年度の貸出冊数が昨年度を大きく上回っていることが分かる。特に差が顕著なのが、読書週間の取組を実施した後の11月、12月

図1 2020、2021年度の月別貸出冊



である。このことから、本の紹介活動やキャンペーンによって、普段本を借りていなかった生徒も図書室に足を運んだことが考えられる。今年度の2、3月は未集計であるが、1月末時点でも前年度の合計冊数を1000冊以上上回っており、今回の取組によって生徒の読書習慣は定着しつつあると言えるだろう。

また、今回の結果や選書アンケートの結果等を教職員で共有し、朝の読書について校内研修を行った。全校で読書の雰囲気や読書習慣を育てる共通認識をもつことができたことも成果の一つである。

(2) 課題

前述のように読書量に向上が見えたが、「読書の質と幅」にはまだ改善の余地がある。図2は、貸し出し図書の分類別グラフである。「文学」が半分以上を占めている。生徒が他の分類の図書にも目を向け、読書する図書の幅を広げることが課題である。また、図書の授業活用についての検討も必要である。今年度は教職員からの希望に応じた図書を購入したものの、感染症対策で満足に活用することができなかった。来年度以降に向け、図書をどう活用していくかを示したい。

図2 今年度貸出冊数

